

野鳥だより

—北海道—

ISSN 0910-2396

北海道野鳥だより第204号

編集・発行 北海道野鳥愛護会

発行年月日 2021年6月21日

ヤマシギ



2021. 1. 11 胆振管内白老町

撮影者 山地みのり(登別市)



も く じ

鳥の寿命 — “北海道の鳥”は長生き？ —
 国立研究開発法人 森林研究・整備機構フェロー
 川路 則友・河原 孝行 …………… 2

コクガン追跡 3年目の軌跡 <後編>
 渡りルートの解明でコクガンの生息地保全を目指す
 コクガン共同調査グループ 澤 祐介 (山階鳥類研究所) …………… 4

野付湾、風蓮湖などに2年連続渡来したハクトウワシ
 野付半島ネイチャーセンター センター長 藤井 薫 …………… 7

バードウォッチャーズ・スケッチブック
 瑞兆なれど心乱れる タンチョウ 札幌市中央区 本間 康裕 …………… 8

野鳥情報コーナー
 ノドグロツグミ(雌)との出会い 石狩管内当別町 道川富美子 …………… 9

キジバトやエゾライチョウはカタツムリを食べる!
 特に軟体動物に着目した「日本産鳥類全種に対する食性データベース」の作成
 美幌博物館 町田 善康 …………… 10

2020年度 北海道野鳥愛護会探鳥会記録 (2020.4~2021.3) …………… 11

2021年度総会報告 …………… 12

北海道野鳥愛護会創立50周年事業
 探鳥会50年の記録 記念誌刊行とデータベース化
 50周年記念事業実行委員会 …………… 14

表紙の鳥 …………… 14

探鳥会ほうこく …………… 15

探鳥会あんない 鳥民だより …………… 16

※本誌に掲載する写真のカラー版は、当会ホームページ(<https://aigokai.org>)で閲覧することができます。

鳥の寿命 — “北海道の鳥”は長生き？ —

国立研究開発法人 森林研究・整備機構フェロー 川路 則友・河原 孝行

<野生の鳥はどのくらい生きる？>

身近に鳥を観察していると、よく疑問に思うことがあります。たとえば、いま見ている鳥はいつ生まれたのだろう、身近にいる鳥たちは何年くらい生きるのだろうかです。確かに、人間などと違い、一見しただけでは、その鳥が若いのか年取っているのか判断つきにくい鳥が多いことも事実です。

最近の図鑑をみると、幼鳥とか、第1回冬羽、若鳥、亜成鳥とか、なにやら細かく難しい分類をしているようですが、それでも大半の小鳥(スズメ目鳥類)は、せいぜい、その年生まれ(つまり1歳未満)か、繁殖を始める1歳以上(成鳥)とかに分類されるだけで、実際に3年も4年も生きている個体がそこにいるかどうかは、ほとんどわからないのが現状です。一般に大型の鳥類や海鳥ほど長生きと言われることがあります。また一方で、鳥の寿命は体の大きさに対する脳の比率に関係するという海外の研究があります(Minias & Podlaszczuk 2017)。つまり、たとえば体は大きくても、相対的に脳が小さいと寿命は長くないということです。ただ、これらはあくまでも全般の傾向ということで、そこからどの種がどれくらい生きるか、という具体的な値は出てきそうにありません。

<鳥の寿命はどうやってわかる？ 鳥類標識調査の貢献>

では、実際に鳥はそれぞれどのくらい長生きできているのでしょうか？ 残念ながら、正確に野生の鳥の寿命を知る方法は、いまのところまったくないと言ってもい

いほどです。ただ、この期間は確実に生きていた、という記録をとる方法があります。それは、鳥に標識を付ける方法です。次にその鳥が捕獲された場合、それまでの期間はその鳥が確実に生きていた証拠となりますので、それがもっとも長いもの(最長生存期間)が、少なくともその種の最高寿命にも近いとは言えそうです。とくに標識を付けた時期がその個体の生まれた年であれば、それは正確な年齢となります。世界の鳥の寿命については、容易にインターネット上で確認することができます。たとえば、ネットで「AnAge」と検索し、鳥の種名(英語名か学名)を入力すると、野外もしくは飼育下でのその種の最高寿命がたちどころに示され、どういう文献を根拠にしたかということまでわかります。ただし、残念ながら、日本産の鳥については、情報がほとんど含まれていないようです。鳥の種類によっては研究者が独自に標識を付け、寿命を明らかにした例もありますが、我が国では環境省の委託事業として、公益財団法人 山階鳥類研究所が全国で実施している鳥類標識調査(バンディング)といわれる手法で実際にデータが蓄積されています。この調査は、渡り鳥の経路解明が大きな目的となっていますが、そのほかにも最長生存期間が判明するといった成果ももたらします。

<実際に日本産の鳥では？>

環境省生物多様性センターのHPからは、「標識調査でわかった鳥の長寿記録」という表が探せます。ここには

1961年から2012年までに判明した主な種の長寿記録が示されており、小鳥類で10年以上も生きるものは少なく、大型の鳥では海鳥類で長生きするものが多いことがわかります。もっとも長寿の鳥としてオオミズナギドリで36年8ヶ月も生きた個体がいたようです。この鳥は、京都府の冠島で1975年5月に標識を付けて放鳥したあと、2012年1月にボルネオで衰弱しているところを保護されたのだそうです。また、最初に標識を付けたときに、すでに成鳥（少なくとも生後4年以上）だったようで、実際には40年以上生きていたであろう、ということです。

昨年、山階鳥類学雑誌に一つの報告が掲載されました（吉安ら 2020）。内容は、1961年～2017年の鳥類標識記録から、放鳥したのちに1回でも回収記録のある289種のそれぞれについて、長期間経過記録のうち、最長とその次の上位2記録ずつを挙げたものです。このうち“北海道の鳥”に着目すると面白いことがわかりました。

＜“北海道の鳥”は長生き？＞

報告に挙げられた記録のうち、北海道で放鳥もしくは回収（再発見）された鳥で、我が国での最長生存記録を示したものが55種もありました。そのうち5年以上の生

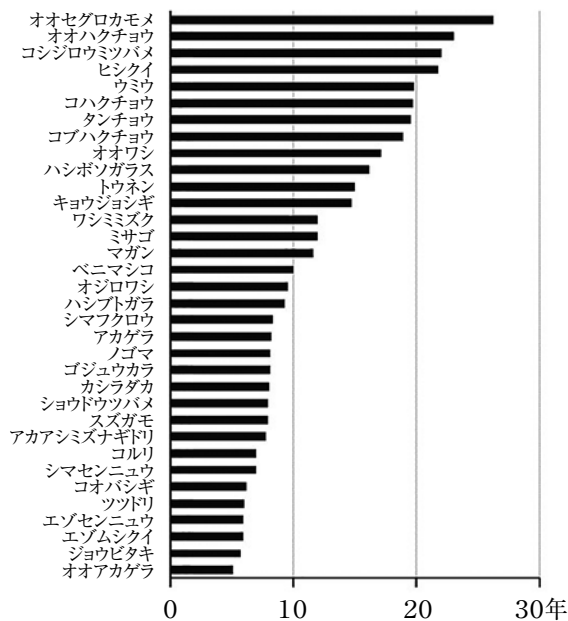


図1. 最長生存期間で北海道の記録が絡んだ種と期間

存期間が判明した種について、図1に示しました。やはり、海鳥の寿命が長く、小鳥類で短い傾向にあるようです。実は、我々二人も、鳥類標識調査協力調査員として、札幌市豊平区羊ヶ丘で、1989年から30年以上にわたって標識調査を継続し、2020年までに92種61,657羽を放鳥しています。その結果、各地から回収記録が集まり、渡り経路の解明という目的に関して、一定の成果を得ることができています（川路・河原 2013）。もちろん、いったん放鳥した鳥が翌年やそれ以降に我が調査地に帰ってきてくれ、再度捕まることも少なくありません。それらから、各種について独自に最長生存期間を挙げてみることもできました。それらと、今回の吉安ら（2020）とを照合し

てみると、なんと、我が調査地が絡んだ記録が、その種の我が国における最長生存期間になっている鳥が3種（ハシトガラ、ヤブサメ、コルリ）いました（表1）。

表1. 国内最長生存記録のうち札幌の羊ヶ丘で記録された種

種名	初放鳥日	再捕獲日	経過期間
ハシトガラ	1992/12/22	2002/4/28	9年5ヶ月
コルリ	2005/5/12	2012/5/13	7年0ヶ月
ヤブサメ	2002/5/17	2006/5/12	3年11ヶ月

ハシトガラの記録では、少なくとも10歳まで生きていたことになります。またヤブサメとコルリは放鳥時にすでに成鳥（すなわち1歳以上）でしたので、前者は約5年以上、後者は8年以上生きていたであろうと思われるかもしれません。これだけではヤブサメの方がやや短命のように思われるかもしれませんが、実は、ヤブサメは他の場所で再捕獲されることがほとんどないのです。したがって、もっと長生きしているヤブサメがいないとも限りません。ただ、羊ヶ丘では繁殖したヤブサメが翌年以降に帰ってきたという記録が数多くありますが、その多くは、再捕獲されたとしてもせいぜい2～3年後なので、ほとんどの鳥は1～2年で死亡していると考えられます。やはり遠くは東南アジア方面まで渡って、ふたたび帰ってくる苦勞を考えると、渡りをする小鳥類は、なかなか長生きしづらいのでしょう。

バンディングでは、鳥に環境省製の番号付き金属リングを装着して放鳥しますが、どこかで再度捕獲されるか、死体で回収されることでいろいろなことがわかります。ただ、近年は望遠レンズの性能発達により、鳥の脚に付いたままの小さなリングを野外で撮影し、それを読み取ることで、再発見記録と見なされるケースが増加しています。我々の身近な例でも、豊平公園で撮影されたアオジ、西岡公園で撮影されたエナガとヤブサメの足環番号の読み取りで、我々が羊ヶ丘で付けて放したものと判明した例があります。小鳥に付ける足環は非常に小さいものですが、撮影条件によっては、鮮明に番号が読み取れることがあります。

鳥類標識調査の重要性がますます認識され、今後、各地で貴重な回収記録が挙がってくることにより、日本産鳥類の最高齢が次々更新される(?)ことが期待されます。

なお、我が国における各種鳥類の長寿記録についての標識放鳥記録の使用については、山階鳥類研究所の許可（許可番号は、山階保全第2-114号）を得ました。

引用文献

川路則友・河原孝行 2013. 羊ヶ丘の鳥はどこから来てどこへ行く？北の森だより(10): 4-8.
 Minias, P. & Podlaszczuk, P. 2017. Longevity is associated with relative brain size in birds. Ecology and Evolution 7: 3558-3566.
 吉安京子・森本 元・千田万里子・仲村 昇 2020. 鳥類標識調査より得られた種別の生存期間一覧(1961-2017年における上位2記録について). 山階鳥類学雑誌 52: 21-48.

コクガン追跡 3年目の軌跡 <後編>

渡りルートの解明でコクガンの生息地保全を目指す

コクガン共同調査グループ 澤 祐 介 (山階鳥類研究所)

2017年11月から実施してきたコクガンの追跡調査では、前号で紹介した「46番」のコクガンの多大なる貢献により、大きく進展しました。まだ、中国大陸の越冬地が不明であったり、「46番」が夏に過ごした場所が、繁殖地なのか換羽地（ガンカモ類は風切羽が一度に生え変わるため、一時的に飛べなくなる。飛べない期間を過ごす安全な場所が必要）なのか、解かなければならない課題は残っていますが、徐々に渡りの全貌が明らかになってきました（図1）。このような研究によって、渡りルートが明らかになるということは、一体どういう意味があるのでしょうか。

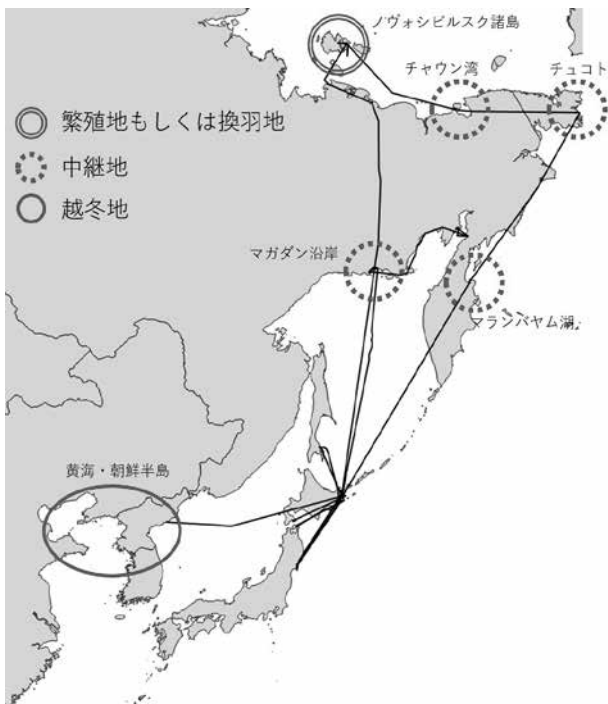


図1. これまでの追跡調査で明らかになった渡りルート (Sawa et al. 2020より改変)

<点から線へ>

コクガンに限らず渡り鳥は、季節によって利用する生息場所が異なります。秋になると野付湾にコクガンが8,600羽やってくる、函館には冬に300羽みられる、などの情報を観察から得ることができます。しかし、函館に来るコクガンは、果たして野付湾を通過しているのでしょうか？この疑問に答えるためには、鳥に標識や発信器をつけて追わなければなりません。

この点をつなぐ作業には、どんな意味があるのでしょうか。渡り鳥は、繁殖地、中継地、越冬地の間を1年の間に1往復していますが、そのどれか一つでも危機的な状況が起こると渡りに大きな影響を与えてしまいます。例えば、ロシアには、日本を含む東アジアに渡ってくるコクガンの集団の他に、北アメリカ大陸で越冬する集団も生息しています。東アジア集団は約8,700羽と数が少なく保護されていますが、北アメリカ集団は10万羽以上も生息し、ロシアやアメリカでは狩猟されています。もしロシアの中継地で、北アメリカ集団と間違われて、東アジア集団が大量に狩猟されてしまったとしたら、東アジア個体群は存続の危機に陥る可能性があります。そうならないためにも、渡り鳥の生息地同士を線でつなぎ、渡りルート全体で保護を進めていくよう働きかけていく必要があるのです（図2）。生息地を線でつなぐイメージです。

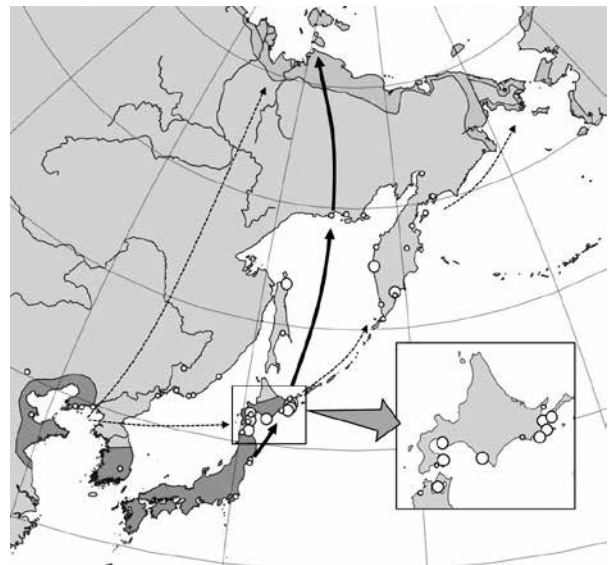


図2. 春の渡り時のコクガンの主要な生息地（大きな白丸）。渡来の記録がある生息地（小さい白丸）。実線矢印は明らかになっている渡りルート。点線は推定の渡りルート (Sawa et al. 2020より改変)

<線から面>

発信器による追跡では、まだ見つかっていない点を見つけることもできます。今回の研究から、北朝鮮の東海岸にコクガンの中継地があることや、オホーツク海北岸のマリアン沿岸域が春の渡り時に重要な中継地になって

いることが推測されました(図1)。次に必要になってくることは、

- ・新たに特定された場所はどんな環境なのか?
- ・いつの時期に、どれくらいのコクガンが利用しているのか?
- ・開発や狩猟などの危機はないのか?

といった現地の情報を収集することです。すでに調べられており、文献が利用可能であればそこから情報が得られますが、まったく情報が無いこともしばしばあります。図2は、これまでの調査や観察記録から明らかになった春の渡り時期のコクガンの主要な生息地を示しています。マガダン沿岸部(写真1)は、追跡結果により日本から渡るコクガンが中継していることが明らかになっていますが、ほとんど情報がありません。このような場所では追加調査を実施するなどして、渡りルート上の重要な生息地の状況を明らかにしていかなければなりません。



写真1. 春の渡りでコクガンが利用する、マガダン近郊のオウラ湿地(Googleより)。今後同地にて、コクガンの飛来状況調査を実施する予定

<コクガン共同調査グループの発足>

コクガンの渡りルートを明らかにし、そのルート上の生息地の状況を調べていくのはとてもスケールの大きな話です。そのためには、日本国内、国外での協力体制を作っていかなければなりません。私たちは、2017年11月から「コクガン共同調査グループ」を発足させ、アメリカ、ロシア、中国の研究者と共同研究を進めています。このグループの発足までの経緯を少し紹介します。

私がコクガンの研究に関わり始めたのは2016年6月からです。「雁の里親友の会」が組んだ、ロシア・レナデルタの繁殖地でのコクガン調査隊に参加したことがきっかけです。レナデルタでは21羽のコクガンに標識しましたが、その1羽が同年12月にアメリカ・カリフォルニアで回収されました(写真2)。

これをきっかけに、アメリカ地質調査所でコクガンを研究しているDavid Ward氏とつながりました。翌月の2017年1月には、東アジア・オーストラリア地域フライ



写真2. Humboldt bayで狩猟されたコクガンと足環

ウェイ・パートナーシップという渡り鳥保護の国際会議で、アメリカ、ロシア、中国の研究者に、東アジアのコクガンの渡り追跡の必要性をアピールしてきました。そして、2017年3月には、北海道大学の予算をいただき、上述の研究者を招いて、コクガンについてのみ議論する「コクガン専門家会議」を3日間にわたって開催したのでした(写真3)。この会議で、アメリカ、中国の協力のもと日本でコクガンを捕獲して発信器追跡を実施すること、発信器追跡により新たな生息地が見つかった場合、中国、ロシアと連携してその場所での調査をしていくことなど、共同研究の内容が固まったのです。アメリカでレナデルタ発の標識コクガンが見つかったからわずか4か月。とてもめまぐるしかったのですが、かなりの時間と労力を使い、この専門家会議までこぎつけました。今思うと、本当によくやったものだ…。



写真3. コクガン専門家会議の出席者。上段左から、田村智恵子、Cao Lei、David Ward、牛山克己、Inga Bysykatova、Nadezhda Bysykatova、嶋田哲郎
下段左から、石下亜衣沙、筆者、池内俊雄

そして、2017年11月に野付湾でコクガン4羽を捕獲し、渡り追跡の研究が始まりました。これを機に関係者と「コクガン共同調査グループ」を結成し、今後の共同研究を推進していくことになったのです。

<今後の取り組み>

コクガン共同調査グループでは、今後、以下の活動を進めていきたいと考えています。

- ① コクガンの渡りルート追跡
- ② 渡りルート上の生息地の現状調査
- ③ 生息地保全に向けた研究成果の還元

①の渡りルート追跡ですが、確実な繁殖地はまだわかっていません。さらに、中国大陸の越冬地は不明なままです。特に中国大陸の生息地を明らかにするには、秋の渡り時期に、中国に渡るであろう個体を狙って捕獲しなければなりません。2022年までは発信器による追跡を予定しているため、あと2年のうちに何とか明らかにできればと考えています。

②の渡りルート上の生息地調査では、繁殖地もしくは換羽地と思われるノヴォシビルスク諸島での調査を2021年夏に共同調査として、ロシア研究者による小型飛行機での上空調査を実施予定です。ノヴォシビルスク諸島に少なくともどの程度の規模のコクガンが生息しているのかが明らかになることが期待されます。また、2021年か2022年にマガダンでの春の渡りの調査を予定しています。発信器で追跡したコクガンが利用した場所を中心に、マガダン周辺の沿岸域で、春の渡り時にコクガンがどれほど飛来しているのかを調べる予定にしています。以降は、ロシア・カムチャツカ半島のマランバヤム湖（秋の渡りの中継地）や中国大陸の越冬地調査などを企画していきたいと考えています。さらには、もう少し深掘りしてコクガンの生息地での詳細な利用環境や、主な食物である海草・海藻類の資源量との関係を探っていきたいと考えています。

③の生息地保全に向けた取り組みの支援については、大きくわけて二つ、活動があります。一つは、本研究で明らかになった成果や重要な生息地について、国際的な認知度を上げていくことです。そのためには、ラムサール条約、東アジア・オーストラリア地域フライウェイ・パートナーシップ、北極渡り鳥イニシアティブなどといった、渡り鳥やその生息地を守る国際的な条約、協定などを活用していきます。これらの国際条約では、定期的に会合を行っており、各国の研究者や行政担当者が集まります。そこで、研究成果の発表や重要な生息地の存在を認識してもらうことから始まります。特にラムサール条約やフライウェイ・パートナーシップでは、重要な生息地を「ラムサール条約湿地」や「フライウェイサイト」として登録し、保護を促進する仕組みがあります。北海道でも野付湾や風蓮湖など、コクガンの飛来地にもなっている場所が登録されています。多くの国では、ラムサー

ール条約湿地として登録されるプロセスの中で、法的な保護が担保されることになるため、条約湿地への登録は、そこを利用する渡り鳥の生息地保全には非常に効果的なのです。

一方で、これらの条約湿地へ登録するためには、地元自治体や関係者の合意形成が必須となります。そのためにも地域の方々に、研究成果やその生息地の重要性を知ってもらう必要があります。これが二つ目の活動となります。生息地を実際に守っていくには、地域の方々がその重要性を認識し、実際に行動を起こしていかなければなりません。研究者だけでは決して守ることはできないのです。我々ができることは、「守りたい」という動機を作ることだと考えています。地域に飛来している渡り鳥が、どこから来て、どこに行っているのか？ということを知ってもらい、「すごい旅をしてるんだ、守りたい」と思う方もいらっしゃると思います。また、コクガンは海草・海藻を主な食物としていますが、漁業従事者にとってはその海草・海藻を守っていく＝豊かな漁場を守ることが、動機になると思います。さらに狩猟されている場所であっても、将来にわたって持続可能な形で狩猟していくためには、年間何羽以下に抑えなければならない、という数を示すことも重要です。いずれにせよ、コクガンがどんな鳥で、どんな環境が必要なのか、そして地域の方々の生活とどうつながっているのか？といったことを、研究の成果を論文で発表することに加え、その成果を広めていくことが重要だと考えています。

コクガン共同調査グループで一緒に活動している「雁の里親友の会」（宮城県）では、コクガンの調査活動をまとめた絵本やカレンダーなどを制作しています（写真4）。微力ではありますが、こうしたツールを通して、少しでも渡り鳥を身近に感じたり、興味を持ってくれたりする方を増やしていきたいと思っています。



写真4. 「雁の里親友の会」で制作した絵本、カレンダー。
ご興味のある方は、事務局の池内俊雄氏
(foster_a_goose_2018@nifty.com) まで

引用文献

Sawa Y. et al. 2020. Wildfowl (2020) Special Issue 6: 244-266.

野付湾、風蓮湖などに2年連続渡来したハクトウワシ

野付半島ネイチャーセンター センター長 藤 井 薫

根室地方の羅臼から根室にかけての沿岸には、オジロワシ・オオワシなどの海ワシ類が毎年、越冬の為に数多く渡来することから、1980年代から現在まで、オジロワシ・オオワシ合同調査グループが全道的な範囲でのモニタリング調査を行ってきましたが、ハクトウワシの記録はありませんでした。

しかし、2001年7月25日に北方領土の国後島北東部のサラトフカ川河口でハクトウワシ1羽がSkopets & Dorogoyらによって観察され、日本初記録となったことから、対岸の根室地方への渡来も期待されていました。

そして、2020年1月27日に野付半島飛雁（トビカリ）の沿岸の疎林で、他の海ワシ類と一緒に樹上にとまるハクトウワシ1羽が観察され、これが、日本本土での初記録となりました。この時に観察された個体は、特徴である黒褐色の体に頭部と尾羽が白く、一目でハクトウワシと判る個体でしたが、よく見るとクチバシの基部と耳羽、尾羽の先端に黒斑が僅かに残ることから完全な成鳥ではなく、4年目亜成鳥と考えられました。その後、この個体は野付半島ナラワラ、根室市風蓮湖、釧路管内厚岸町、釧路湿原などで3月中旬まで観察されていますので、越冬したことは確実と思われます。



写真1. ハクトウワシ 2021.1.16 風蓮湖

ハクトウワシは、北米で標識調査では同じ越冬地に回帰する傾向が強いとの文献もあるので、2021年も野付湾や風蓮湖の氷下待網漁の漁場を中心に注意深く海ワシ類の観察を行っていましたが、2021年1月16日に風蓮湖畔で再確認することができました（写真1と写真2）。この個体は、尾羽は完全に白く抜けてはいますが、クチバシの基部と耳羽の周辺に淡褐色斑が残っており、その位置は前年の個体の黒斑の位置と符合することから同一個体間違いなく、尾羽が完全な白色であることから5年目の成鳥と思われます。

2021年の動きは、風蓮湖畔から、根室市温根沼、花咲港漁港、根室管内別海町西別川河口で2月下旬まで観察

されています。3月以降の動きは把握できていませんが、2020年に続き、2021年も越冬したと考えています。ハクトウワシの野生下での寿命は20年を超えるとの文献もあるので、今後も野付湾から風蓮湖周辺で継続的に越冬のために渡来する可能性は高いと考えています。



写真2. ハクトウワシ 2021.1.16 風蓮湖

これまでのハクトウワシの道東における観察で気がついた点をあげると、まず、雌雄については、一緒に観察した海ワシ類との比較で、オジロワシ雌と同大か僅かに大きいことから雌である可能性が高いと考えています。特徴的だった行動として、採餌行動があげられます。海ワシ類を集めるために観光目的で餌付けしている場所では観察されず、主に氷下待網漁の漁場で観察されており、その採餌方法も他の海ワシ類から空中で略奪するような行動が観察されていることから、比較的人為的な要素を嫌う傾向があるのかもしれませんが。

最後になりますが、今後も道東沿岸にハクトウワシが渡来する可能性は高いと思いますが、野付湾や風蓮湖の氷下待網漁が行われている凍結した湖面は、氷下の潮の流れを熟知している地元の漁師さんやネイチャーガイドのアドバイスが必要です。勝手に氷上を歩いたりすることは大変危険ですし、漁業者の活動を妨げることとなりますので、くれぐれも安全に留意して観察して頂きたいと思っています。

バードウォッチャーズ・スケッチブック

瑞兆なれど心乱れる タンチョウ

札幌市中央区 本間 康裕

北海道千歳市といえば、いわずと知れた新千歳空港の所在地。国際線も飛んでいるし、空自2空団もあるから自衛隊機やときには米軍機も飛んできます。でも以前は千歳の空をばんばん飛んでいたのは飛行機ではなくてツルでした。何というツルがいたか書いてある本を読んだことはないけれど、きっとタンチョウだろうと思います。それが乱舞していたのが、いつの話かという、幕末のころ。当時、一带は「シコツ」というふうと呼ばれていました。アイヌ語で「ほんとにへっこんだところ」といった意味の大湿地帯だったらしい（詳しくはアイヌ語に精通した方に聞いてくださいね）。

ところが、和人がこれをこの辺の地名にしようとしたところ、「シコツは死骨につながるから縁起が悪い」とクレームがついちゃった。シコツは今でも「支笏湖」の名前になっているので、そんなに不気味とも思えないけど、差別的な意識もあったのかな。で、箱館奉行だった羽太正泰という人が「ツルがたくさんいて、『亀は万年、鶴は千年』というから『千歳』にしよう」と決めたというのです（山田秀三さんの「北海道の地名」では「正泰」ですが、「北海道駅名の起源」では箱館奉行は「羽太正養」。一方「箱館奉行 戸川安論」が決めたという説もあります）。

さて、そんなに縁起のいい名前をもらったのですが、肝心のタンチョウのほうはその後、数が減ってしまい、昭和のころには千歳周辺を含む道央圏から姿を消していました。でも、平成が終わるころ、ぽつらぽつらと姿を現すようになったのです。これは千歳市の隣、空知管内長沼町にある舞鶴地区（これも以前ツルがいたことからついた地名）の農家の皆さんが舞鶴遊水地という洪水防止用の池をタンチョウがいる水辺にしようと尽力された結果です。2020年にはつがい繁殖に成功したようです。

というわけで、ちょっと前なら珍鳥ということで、心無いカメラマンが追いかけてまわした道央圏のタンチョウもやっと、当たり前にいる鳥になった（市民権を得た？）ようです。となれば、B級バードウォッチャー（私にとって最上級はZ級ですからね。B級は下から2番目、つまり素人同然）の私もタンチョウ探しに行っても迷惑はかけまい、と舞鶴遊水地に出かけたのは2021年3月23日のことです（文字通りの探鳥=タンチョウだ）。

すっかり雪の解けた舞鶴遊水地はヒシクイやオオハクチョウがひしめいていましたが、タンチョウの姿はなく、それではと、近くの長都沼（千歳市と長沼町にまたがっている）に向かいました。細長い沼のまんなかあたりには四阿風の展望台があるのですが、そこから見えたのはアオサギとダイサギだけ。「今日はだめか」と、沼に沿った道路を長沼町方向に引き返すと途中に、なぜか路

上駐車している車が何台もありました。カメラマンがいます。「タンチョウを撮っているんだ!」。早速、当方も路駐して沼の方を探しました。いました! ちょうど沼と道路の間の樹木の途切れたところから2羽のタンチョウの姿を見ることができました。



長都沼の2羽のタンチョウ



“日本産のツル”の学名を持つタンチョウ

その時のタンチョウを描いたのがこの2枚の絵です。ここで脱線して、ちょっと学名にふれると、タンチョウはグルス・ヤポネンシスというのですね（本来、学名はアルファベット表記しなければならないのですが、面倒なので便宜上カタカナで書きました。なお発音の表記は小森厚「どうぶつ学名散策」によりました）。グルスはラテン語でツルのこと。「日本産のツル」という意味です。さてラテン語には男性名詞、女性名詞、中性名詞とあって、「～ウス」というのはたいてい男性名詞です。ところがグルスは女性名詞なのです。どうやら男性名詞、女性名詞という文法ができる前にすでに名前として定着していたものようです。で、その名前は鳴き声からつけられたらしい（「グルグル」と鳴くので）、というのは納得できます。一方、ツルの英名はクレーンで、これは工事現場で荷物をつり上げているクレーンと同じです。おそらくその形が似ているので（起重機の方に）つけられたのですが、もとをただせば、これもツルの

鳴き声（あの「クルルーン」というやつ）が始まりです。タンチョウの英名についてはのちに触れましょう。

タンチョウは瑞兆の鳥ですが、いろいろ心悩ますこともあるのです。例えば、万葉集にある作者未詳の歌。

足柄の箱根飛び越え行く鶴（たづ）の
ともしき見れば大和し思ほゆ

「足柄の箱根」というのは今の神奈川県あたりの峰。それを飛び越えていくツルの「ともし=乏し」、つまり数の少ないのを見ると、その行く方向にある、自分が別れて来た大和のことが思われる～というのです。ここでは数が少ないツルの飛翔が物悲しく、さらに故郷を思い起こさせる象徴としてよまれています。めでたい、美しいばかりの鳥ではないのです。

このツルが何かはわからないのですが、タンチョウは江戸時代までは関東地方にいたことが、歌川広重の浮世絵「名所江戸百景 蓑輪金杉三河しま」などに描かれていて、はっきりしています。なので万葉の時代にも、足柄の箱根にタンチョウがいても不思議はないと思います…もちろん、このツルは大和の方に飛んで行っているの、ナベヅルなどの可能性もあります。しかし、少数が寂しげに飛ぶ姿はタンチョウにふさわしいと個人的には感じるのですが。

さらにもう一つ、先ほどツルの英名を話しましたが、タンチョウの英名は日本鳥類目録改訂第7版によれば、レッドクラウンド・クレーン、つまり「赤い王冠を被ったツル」。ぴったりと言えぱりですが、学名にヤボネンシスとあるのだから、ジャパニーズ・クレーンとならないものかと思うのですが（実際、日本鳥類目録改訂第6版ではジャパニーズ・クレーンでした）…。ご存じのようにタンチョウは北海道のほかに中国東北部でも生息しているのです。なので一時マンチュリアン・クレーンと呼ばれたこともありました（「鳥630図鑑」第3刷ではそうなっています）。つまり「満州（中国東北部）のツル」。

ところが、満州という地名は過去の日本と中国との不幸な歴史を思わせる言葉として特に中国の研究者から歓迎されません。中国鳥学界の第一人者鄭作新博士もレッドクラウンド・クレーンという名前を使用していたといっています。「日本」とか「満州（中国東北部）」といった地理的な、時には政治的な意味合いを含んだ名前を冠するより「赤い冠」のほうが、問題がない（ニュートラルだ）ということなのでしょう（ただし、アフリカ産のカムリヅル=クラウンドクレーンの1種と誤解されはしないかという問題はあるようですが）。

というわけで、タンチョウは美しいし、身近にみられるのはうれしいのですが、実際に現れたとなると、吉祥ばかりではなく、不幸な歴史を思い起させたり、望郷の念にかられたり、心わずらわせることが惹起することがままあるようです。（イラスト筆者）

※会報183号、185号、186号に連載した「バードウォッチャーズ・スケッチブック」の続編として随時、掲載します。

野鳥 情報コーナー

ハチジョウツグミと交雑の可能性がある
ノドグロツグミ(雌)との出会い

石狩管内当別町 道川 富美子



亜種ノドグロツグミの雌 2021.3.04 北大苫小牧研究林

2021年3月4日、大雪で外出もままならない日が続いた後のようやくの晴れ間。南へ行けば雪も少ないし春も早いからと、カラ類のさえずりも楽しみにして北海道大学苫小牧研究林へ向かいました。

午後1時頃、研究林内を流れる幌内川の縁から飛び立ち、対岸の横枝に止まった鳥がいました。止まってすぐに濡れた体を震わせていて、一瞬ツグミかと思いましたが褐色の体には赤味がありません。種名が思い浮かばなかったのも後で調べようと急いで何枚か撮り、枝葉が被さってピントがなかなか合わないで数歩動いた、その隙に見失ってしまいました。止まったのはヨーロッパトウヒ林の林縁の樹で、その脇にハルニレなどの疎らな林があり、庁舎が見えていました。当日、研究林で他にツグミ類は見かけませんでした。

この鳥は、上下面の色合い、嘴や脚の色、ノドと胸に縁が白くて暗褐色の縦斑が見られるといった点から、亜種ノドグロツグミ (*Turdus ruficollis atrogularis*) の雌とみられました。白い眉斑がありますが、図鑑やインターネットで調べると眉がはっきりしないのもいて、個体差があるようです。北大地球環境科学研究院助教の先崎理之さんによると、下尾筒のオレンジ色、脇にある大きめの斑などから亜種ハチジョウツグミ (*T. naumanni naumanni*) と交雑している可能性があるようです。

西アジアやインドとかで越冬するはずが、遠くまで迷ってきたようです。のんびり水浴びをしていたのを邪魔したようで悪かったなと思いつつ、うれしい出会いでした。

写真をチェックしてくださった愛護会の池端耕治さん、ならびに先崎さん、ありがとうございます。北海道での亜種ノドグロツグミの記録は、1979.80年に札幌市の餌台に飛来した雄と、野鳥だより188号（2017年）掲載の千歳市での雄となっています。

キジバトやエゾライチョウはカタツムリを食べる!

特に軟体動物に着目した「日本産鳥類全種に対する食性データベース」の作成

美幌博物館 町田善康

「えっ!キジバトがカタツムリを食べていたんですか!?!」「エゾライチョウもですか!?!」

共同研究者の一人である網走市在住の渡辺恵さんが美幌博物館に持ち込んだ小さなチャックビニール袋の中身を見て驚きました。だって、キジバトもエゾライチョウも、木の実を食べているとばかり思っていましたから…。でも私なんかよりも、驚いていたのは、共同研究の代表者である京大の森井悠太博士でした。

さて、そもそもカタツムリとは、陸にすむ巻貝の総称で、殻が退化してなくなったナメクジたちも合わせて陸産軟体動物と呼びます。この陸産軟体動物だけでも、35,000種類が知られ、日本では800種類、北海道でも70種類もが発見されています。これに加えて、淡水産の軟体動物(カワナナやモノアラガイ)や海産の腹足類(エゾボラ:通称ツブガイ)、二枚貝(アサリやハマグリ)。さらに頭足類(イカやタコの仲間)と、全ての軟体動物を入れると地球上には約80,000~110,000種がいると言われています。野鳥は、およそ10,000種と言われているから、いかに軟体動物が多いかわかっていただけだと思います。



写真1. キジバトの素囊と砂囊から出てきたパツラマイマイ(大)、ヤマボタルガイ(中)、エゾキビ(小)。

野鳥は、植物の葉や種子から、虫や小型の哺乳類まで様々な生き物を食べることから、生態系の中では上位に位置する捕食者として重要な役割を果たします。ですから、野鳥が何をどのくらい食べているのかを知ることは、生き物同士の関わりを理解するためにもとても重要です。日本では、長い鳥類学の歴史の中で野鳥の食べ物について様々な研究が行われてきました。ただ、それらの研究は、多くの文献に散在し、利用しづらい状況にありました。そして何より、日本列島とその周辺の鳥々は生物多様性が高く、日本の野鳥の食性を正しく把握できれば、地球上の全生態系を網羅的に理解するためにも重要だと言えます。そこで、京大、北大、美幌博物館など私たちの

共同研究では、日本鳥類目録にある633種につき、世界中で1913年から2018年までに発表された165件の学術論文と書籍から、それぞれが何を餌にしているかの記録を収集したものに、今回のエゾライチョウとキジバトの記録を加えて「日本の野鳥と餌」に関する網羅的なデータベースを作成しました。

新聞報道では「日本の全野鳥の餌一目で」と大きく見出しが出たため、個別の野鳥の食べ物に関するご質問を多くいただきましたが、特に鳥と軟体動物に着目してまとめていることを、ご承知おきください。

日本の野鳥633種のうち、陸産軟体動物を食べていたのが87種。次いで、淡水産軟体動物が48種、海産腹足類が43種、海産二枚貝が36種、海産頭足類が41種でした。文献調査と、渡辺さんが持ち込んだ標本の情報も加えると、248種の野鳥が軟体動物を捕食していました。ちなみに渡辺さんの標本からは、キジバトでパツラマイマイ、ヤマボタルガイ、エゾマイマイ、エゾキビが見つかり(写真1)、エゾライチョウでオカモノアラガイが見つかりました。

博物館は、地域住民の学びの場として、全国各地に建設されました。多くの人が学び、集まる場所だからこそ、研究者と地域住民とを橋渡しにできる施設です。そしてそこには、地域に精通した学芸員がいるので、生き物のことを調べている方たちにこそ、活用いただきたいです。正直、私たち学芸員より分野によっては詳しい方が多く、渡辺さんのように、コウモリやモモンガ、野鳥のことなど幅広く調べて、報告を出している方からは、逆に情報を頂くことが多いです。今回の研究は、こんな縁が重なり、世界でも権威あるNatureパブリッシング・グループが発行するScientific Data誌に論文「日本の野鳥は、何を食べているのか? 日本産鳥類全種に対する食性データベースの作成」として掲載されました。美幌博物館がこうした学術誌に掲載された論文のキッカケになれたことを、光栄に思っています。もし、あなたが生き物の面白い現象を見つけたならば、ぜひ一度、お近くの博物館に持ち込んでみてはいかがでしょうか?もしかすると、世界が驚く大発見につながっているかもしれません。

データベースは以下をご覧ください。

<https://zenodo.org/record/4293296>

論文は以下をご覧ください。

<https://www.nature.com/articles/s41597-021-00800-6>

論文のFig.2のチャートを理解いただければ、おおよその内容はわかると思います。また、以下の北大のページに報道発表した日本語要約がありますので、こちらも参考にしてください。

https://www.hokudai.ac.jp/news/pdf/210121_pr.pdf

2020年度 北海道野鳥愛護会探鳥会記録(2020.4~2021.3)

科種名	探鳥地	記録回数						
		いしかり調整池	野幌森林公園	宮島沼	いしかり調整池	野幌森林公園	室蘭唐松平	野幌森林公園
月日	9/6	9/13	9/27	10/3	10/11	10/18	11/1	3/7
カモ科								
ヒシクイ			●					1
マガン			●	●				2
シジュウカラガン			●					1
オシドリ					●			1
ヨシガモ			●		●			2
ヒドリガモ			●		●		●	3
マガモ	●		●		●		●	4
カルガモ	●		●	●				3
ハシビロガモ	●		●					2
オナガガモ	●		●					2
シマアジ	●							1
コガモ	●		●		●		●	4
キンクロハジロ			●		●		●	3
スズガモ			●					1
カワアイサ			●					1
カイツブリ科								
カイツブリ			●		●		●	3
カンムリカイツブリ			●					1
ミミカイツブリ			●					1
ハジロカイツブリ			●					1
ハト科								
キジバト	●		●		●			3
ウ科								
ウミウ						●		1
サギ科								
アオサギ	●		●	●				3
ダイサギ	●		●	●				3
チュウサギ	●							1
コサギ	●							1
トキ科								
ヘラサギ	●							1
クイナ科								
オオバン					●			1
チドリ科								
コチドリ	●			●				2
シギ科								
ツルシギ	●							1
アオアシシギ	●							1
タカブシギ	●							1
イソシギ	●							1
トウネン	●			●				2
オジロトウネン	●							1
ヒバリシギ	●							1
アメリカウズラシギ	●							1
ウズラシギ	●							1
エリマキシギ	●							1
アカエリヒレアシシギ	●							1
カモメ科								
オオセグロカモメ						●		1
ミサゴ科								
ミサゴ				●				1
タカ科								
トビ	●		●	●	●	●		6
オジロワシ							●	1
チュウヒ			●					1
ツミ						●		1
ハイタカ				●		●		2
オオタカ				●		●		2
ノスリ	●		●	●	●	●		5

科種名	探鳥地	記録回数							
		いしかり調整池	野幌森林公園	宮島沼	いしかり調整池	野幌森林公園	室蘭唐松平	野幌森林公園	円山公園
月日	9/6	9/13	9/27	10/3	10/11	10/18	11/1	3/7	
キツツキ科									
コゲラ			●			●		●	4
オオアカゲラ						●		●	2
アカゲラ		●	●	●		●		●	6
クマガラ								●	1
ヤマゲラ								●	2
ハヤブサ科									
ハヤブサ		●		●	●				3
モズ科									
モズ		●							1
カラス科									
カケス						●	●	●	4
ハシボソガラス		●					●		2
ハシブトガラス			●	●	●	●	●	●	7
シジュウカラ科									
ハシブトガラ						●		●	3
ヤマガラ			●			●	●	●	5
ヒガラ						●	●	●	4
シジュウカラ		●				●	●	●	5
ヒバリ科									
ヒバリ				●	●				2
ツバメ科									
ショウドウツバメ		●							1
ヒヨドリ科									
ヒヨドリ			●			●	●	●	5
ウグイス科									
ウグイス			●			●	●		3
エナガ科									
エナガ							●	●	2
ムシクイ科									
センダイムシクイ						●			1
メジロ科									
メジロ						●	●		2
ゴジュウカラ科									
ゴジュウカラ			●			●	●	●	5
キバシリ科									
キバシリ			●						1
ミンサザイ科									
ミンサザイ								●	1
ムクドリ科									
ムクドリ		●		●					2
ヒタキ科									
ツグミ								●	1
サメビタキ			●						1
コサメビタキ			●						1
スズメ科									
スズメ								●	1
セキレイ科									
ハクセキレイ		●			●				2
アトリ科									
アトリ						●			1
カワラヒワ						●	●	●	3
マヒワ								●	2
ベニマシコ							●		1
ウソ								●	1
シメ								●	1
ホオジロ科									
ホオジロ							●		1
アオジ			●	●		●	●		4
観察種類数		33	12	29	16	27	23	23	17
参加者数		52	23	42	22	31	41	24	25

※1 定例探鳥会は8回実施。3/21ウトナイ湖探鳥会は荒天のため中止。他はすべて新型コロナウイルス感染防止のため中止。新型コロナウイルス感染防止のため中止の探鳥会 (4/12モエレ沼、4/19宮島沼、4/26野幌森林公園、5/5藤の沢、5/10野幌森林公園、5/17千歳川、5/24鶴川河口、5/31野幌森林公園、6/7植苗ウトナイ、6/14厚別川、6/21野幌森林公園、6/28福移、7/5野幌森林公園、8/23石狩川河口、8/30鶴川河口、11/8ウトナイ湖、12/6野幌森林公園、1/24小樽港、2/7野幌森林公園の19回)

※2 9/13の野幌森林公園探鳥会は降雨のため夏コースの四季美コース(大沢の池)を通らずショートカットして行いました。

※3 総観察種 33科 86種、1回平均 22.5種(前年度:39科 134種、1回平均27.0種)

※4 総参加者数 260人、1回平均 32.5人(前年度:720人、1回平均32.7人)

2021年度総会報告

日 時：2021年4月14日(水) 14：00～15：00

場 所：かでの2・7 110会議室

樋口孝城会長挨拶のあと、議長に栗林宏三氏を選出した。審議のうえ、原案通り可決、承認された。

(議事)

1. 2020年度事業報告

[総務]

(1) 野鳥写真展の開催

(エルプラザはコロナ禍により中止)

期 間：2020年6月2日(火)から6月30日(火)

場 所：野幌森林公園自然ふれあい交流館

出 展：20名 37点

(2) 「北海道野鳥だより」の発送「200号～203号」

(3) 新年講演会・野鳥写真映写会：中止

(4) 北海道野鳥愛護会の名前入りカレンダーの作成・販売受け渡しが出来ないため、中止

(5) 定例役員会の開催(毎月1回、計12回)：新型コロナウイルスの影響により、4、5、11、12、1、2月の役員会を中止

(6) 傷害保険の更新(対象者720名 保険料14,400円)

[広報]

(1) 「北海道野鳥だより」の発行「200号～203号」

(野鳥だより編集委員会)

(2) 北海道野鳥愛護会ホームページの維持・運営

(ホームページ運営委員会)

(3) 年間予定表配布

[探鳥]

(1) 探鳥会の開催 8回(総参加者数260人 1回平均32.5人)以下の20回を中止

4月(3回)、5月(5回)、6月(5回)、7月(1回)、8月(2回)、11月(2回中1回)、1月(1回)、2月(1回)、3月(2回中1回)

(2) 宿泊探鳥会・小樽港探鳥会：中止

(3) いしかり調整池環境保全活動

・6月18日に花壇の植栽

・7月21日に水やり、追肥、花柄つみなどの花壇整備

・8月28日・9月6日・10月3日・10月31日に清掃活動

[50周年記念事業]

50周年記念事業実行委員会を中心に下記の活動を行った。

・記念号(200号の増ページ)の発行

・「私たちの探鳥会」発刊(3月下旬に配布)

・「探鳥会記録データベース」作成(4月1日より公開)

・記念式典・記念探鳥会などは別途検討

[その他]

会の運営に当たり会員皆様からの寄贈をいただきました。

・記念切手多数 ・アルコールハンドミスト

・消耗品費用 ・望遠鏡用アクリル板のストラップ

・不織布マスク

2. 2020年度決算報告

2020年度決算報告書(別掲の通り)

3. 会計監査報告

白澤監事から適正処理の報告があり承認

4. 2021年度事業予定

[総務]

(1) 野鳥写真展の開催

期 間：2021年5月10日(月)から5月21日(金)

9：00～17：00(土、日 休館)

場 所：ほくでんギャラリー

札幌市中央区大通東1の2 北電本社1F

(2) 野幌森林公園自然ふれあい交流館写真展

期 間：2021年6月1日(火)から6月30日(水)

(3) 「北海道野鳥だより」の発送「204号～207号」

(4) 新年講演会・野鳥写真映写会の開催

会 場・内容未定：9月頃までに可否を決定

(5) 定例「役員会」の開催(毎月1回、計12回)

(6) 傷害保険の更新

(7) 関連団体との協力(野幌森林公園を守る会など)

[広報]

(1) 「北海道野鳥だより」の発行「204号～207号」

(野鳥だより編集委員会)

(2) 北海道野鳥愛護会ホームページの維持・運営

(ホームページ運営委員会)

(3) 年間予定表の各施設への配布

[探鳥]

(1) 探鳥会の開催 28回

・宿泊探鳥会：中止

(2) いしかり調整池環境保全活動：継続実施

(3) テストケースとして茨戸川緑地探鳥会を計画 6月5日(土)9：00～

[50周年記念事業]

記念式典・講演会などの検討

5. 2021年度予算報告

2021年度予算書(別掲の通り)

6. 2021年度役員人事

島崎幹事：退任

先崎 理之：新任 幹事(広報)

白田幹事：(旧)探鳥⇒(新)広報兼探鳥

顧問 藤巻裕蔵、小堀煌治、戸津高保
 会長 樋口孝城
 副会長 富川 徹、栗林宏三、横山加奈子
 監事 白澤昌彦、松原寛直
 代表幹事 畑 正輔
 幹事
 (総務) ◎辻 雅司、品川陸生、竹内 強、
 中村 隆、畑 正輔(兼)、田中冬彦
 (会計) ◎横山加奈子(兼)、原 美保、浜野チエ子

(探鳥) ◎早坂泰夫、梅木賢俊、門村徳男、
 北山政人、佐々木裕、道場 優、
 鷲田善幸、佐藤ひろみ、富川 徹(兼)、
 臼田 正(広報兼)、栗林宏三(兼)、
 新城 久、鈴木幸弥、藤吉 功
 (広報) ◎國本昌秀、樋口孝城(兼)、川路則友、
 道川富美子、中田達哉、
 臼田 正(探鳥兼)、先崎理之
 ◎：各担当代表

2020年度 決算書

(収入の部)

項目	2019年度決算	2020年度予算	2020年度決算額	予算比(▲減)	備考
個人会費	555,000	530,000	481,000	▲49,000	
家族会費	189,000	180,000	171,000	▲9,000	前納、後納を含む
団体会費	5,000	5,000	5,000	0	
活動収入	218,600	200,000	6,000	▲194,000	道庁
雑収入	3,705	1,247	43,540	42,293	利息、役員会中止 還付金他
寄付金	27,000	10,000	10,300	300	個人寄付
小計	998,305	926,247	716,840	▲209,407	
繰越金	295,689	348,753	348,753	0	
合計	1,293,994	1,275,000	1,065,593	▲209,407	

(支出の部)

項目	2019年度決算	2020年度予算	2020年度決算額	予算比(▲減)	備考
印刷費	437,475	470,000	468,380	▲1,620	野鳥だより印刷費他
通信費	214,616	230,000	210,272	▲19,728	会報発送費、切手代、 ホームページ維持費
会議費	44,500	44,500	56,600	12,100	役員会、総会会場費
活動費	179,540	200,000	0	▲200,000	
消耗品費	14,490	30,000	17,008	▲12,992	ink代、封筒代、用紙代他
事務所費	40,000	40,000	40,000	0	事務所費用
傷害保険費	13,620	14,500	14,400	▲100	保険代
雑費	1,000	10,000	0	▲10,000	
予備費	0	236,000	0	▲236,000	
基金積立	0	0	0		
小計	945,241	1,275,000	806,660	▲468,340	
次年度繰越	348,753	0	258,933	258,933	当年度余剰金
合計	1,293,994	1,275,000	1,065,593	▲209,407	

2021年度 予算書

(収入の部)

項目	2021年度予算	2020年度決算	増減	備考
個人会費	466,000	481,000	▲ 15,000	
家族会費	150,000	171,000	▲ 21,000	前納、後納を含む
団体会費	5,000	5,000	0	
活動収入	110,000	6,000	104,000	講演会、小樽探鳥会
雑収入	67	43,540	▲ 43,473	利息他
寄付金	10,000	10,300	▲ 300	個人寄付
小計	741,067	716,840	24,227	
			0	
			0	
繰越金	258,933	348,753	▲ 89,820	
			0	
合計	1,000,000	1,065,593	▲ 65,593	

(支出の部)

項目	2021年度予算	2020年度決算	増減	備考
印刷費	440,000	468,380	▲ 28,380	野鳥だより印刷費
通信費	202,000	210,272	▲ 8,272	会報発送費、切手代、ホームページ維持費
会議費	42,100	56,600	▲ 14,500	役員会、総会会場費
活動費	94,000	0	94,000	会場費、バス代
消耗品費	27,000	17,008	9,992	事務用品他
事務所費	40,000	40,000	0	
傷害保険費	5,200	14,400	▲ 9,200	保険代
雑費	10,000	0	10,000	設備利用料他
予備費	139,700	0	139,700	
基金積立	0	0	0	
小計	1,000,000	806,660	193,340	
次年度繰越	0	258,933		
合計	1,000,000	1,065,593	▲ 65,593	

積立基金特別会計

(2020年度収支決算)

項目	金額
積立金	600,000
一般会計より繰入	0
支出	353,010
差引合計	246,990

(2021年度収入予算)

項目	金額
積立金	246,990
一般会計より繰入	0
合計	246,990

会員数

	2017. 4. 1	2018. 4. 1	2019. 4. 1	2020. 4. 1	2021. 4. 1
個人	262名	274名	261名	252名	238名
家族	124名(55家族)	119名(52家族)	132名(59家族)	135名(60家族)	120名(53家族)
団体	1会員	1会員	1会員	1会員	1会員
合計	387名	394名	394名	388名	359名

北海道野鳥愛護会創立50周年事業 探鳥会50年の記録 記念誌刊行とデータベース化

50周年記念事業実行委員会

愛護会創立50周年に当たり編纂してきた『私たちの探鳥会 グラフと表で見る探鳥会50年の記録』を3月25日に700冊刊行しました。半世紀にわたる16か所の探鳥記録について、図表を多用し簡潔に整理した155ページの記念誌となっています。各探鳥地ごとの野鳥の経年的な出現データが見て分かりやすく、生息環境の変化も映し出す価値のある資料となっています。会員並びに関係先には、3月発行の「北海道野鳥だより」203号に同封し、配布しました。



野鳥を楽しく観察するという探鳥会は当会の柱です。その記録は会員一人ひとりの貴重な共有財産です。記録を「楽しむ、感じる、続ける」を意識しながら、今後の愛護会の発展につながる基盤になることを願っています。

記念誌は新入会員に無料で進呈しています。会員の皆さんには野鳥に関心のある方にお勧めいただけますようお願いいたします。購入のみ希望の場合は下記にて販売しています。

エコ・ネットワーク TEL: 011-737-7841

価格: 1,200円 (税込み)

50周年記念事業では、この探鳥記録を紙媒体にとどめず、データベース化しました。4月1日から愛護会のホームページで、誰もが自由に検索できるよう公開しています。

北海道における50年間の貴重な野鳥記録として会員のみならず、研究者や愛好家の活動にも資する内容になっています。

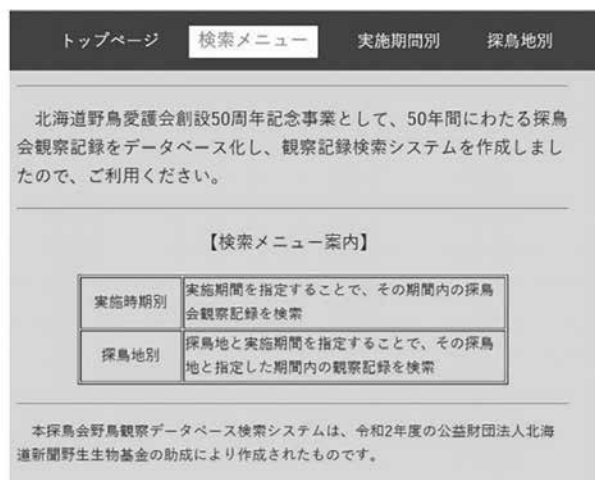
【データベースの利用方法】

当会ホームページの「探鳥会観察記録ページ」の最上

部にある年度欄右端にある「検索」をクリックすると、



以下の案内ページが現れます。探鳥会の実施時期と探鳥地について各種の検索条件を設定することで、該当する探鳥会の実施概要、観察野鳥一覧、探鳥地情報などが閲覧できます。



QRコードやURLからもアクセスできます。



<http://welovebirds.net/current/TopPage.php>

※記念誌とデータベースの作成には2020年度の北海道新聞野生生物基金の助成金を受けました。

表紙の鳥

ヤマシギ



今年1月、積雪が例年より少ないことから胆振管内白老町の山奥までアオシギを探しに入った時のことです。森林の小川を探索中の午前11時ごろ、まさかのヤマシギが私の瞳の中に?? 一瞬、お互い驚き見つめ合い時間が止まりました。そんなひと時の後は、何もなかったように全くその場から逃げることなく、ゆっくりと餌探し。丸く膨らんだヤマシギはとても綺麗で可愛かったです。

最近、タイナ、タシギ、ヒバリなどの夏鳥と厳冬期に出会う機会が度々あります。その度に夏鳥と思われていた野鳥の冬の生活環境が北上しているのかなと感じています。 山地みのり (登別市)



野幌森林公園
2021. 2. 7

新型コロナウイルス感染症の影響
で中止

円山公園
2021. 3. 7
札幌市中央区 國本 昌秀

久しぶりの探鳥会再開です。開会前ですが、集合場所の
木立には幸先よくハギマシコもやって来ました。「密にな



ウソ 筆者撮影

らないように」との
注意事項の説明があ
り、出発です。

数分後に「ウソが
います」との声。10
羽ほどいたでしょう
か。木の芽を懸命に
食べていて、まった
く逃げません。この

時期、円山公園で見たい鳥なので、気持ちも高ぶります。
群れの中に、胸まで赤い雄の亜種アカウソが1羽いるとの
ことですが、私はデジカメに収めることができなくて、少
し悔しい思いもしました。

このあと結氷中の池の周りを行くと、オンコの木からカ
ラ類がたくさん出てきました。お仲間と一緒に鳥を見るの
は楽しいことで、見慣れた鳥もなぜかしら新鮮です。

北海道神宮の桜ゾーンに来たら、ここにもウソ。なぜか
雌が2羽です。皆さん、出発直後に雄の紅色を堪能したの
で、長居はせずに神宮でトイレタイム。頭上の青空には、
オジロワシが舞っていました。

登山口周辺の山麓では、エゾリスが愛嬌をふりまき、カ
ケスやマヒワの姿も。鳥合わせが終わって解散したら、す
ぐ近くのカツラの芽にウソが群がっていました。ちょっと
期待していたエナガ(シマエナガ)とは会えませんでした
が、心も春めく探鳥会でした。

【記録された鳥】トビ、オジロワシ、コゲラ、アカゲラ、
ヤマゲラ、カケス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマ
ガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ゴジュウカラ、
スズメ、マヒワ、ウソ、シメ
以上17種

【参加者】青木あけみ、伊藤知佳子、今村三枝子、岩井
茂、國本昌秀、栗林宏三、佐々木賢、佐藤信子、渋谷公
之、白澤昌彦、鈴木幸弥、辻 雅司・方子、道場 優、徳
田恵美、鳥谷峰修・心、早坂泰夫、原 美保、古川睦美、
辺見敦子、本間康裕、前田美紀枝、森 俊道、横山加奈子
以上25名

【担当幹事】原 美保、國本昌秀

ウトナイ湖
2021. 3. 21

荒天のため中止

モエレ沼
2021. 4. 11

新型コロナウイルス感染症の影響で中止

【幹事による参考記録】ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、
ハシブトガラ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ミ
コアイサ、カワアイサ、カイツブリ、キジバト、カワウ、
アオサギ、オオバン、トビ、ハイタカ、ノスリ、ハシボソ
ガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、ヒガ
ラ、シジュウカラ、ヒバリ、ヒヨドリ、ヒレンジャク、ス
ズメ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シメ、ホオジロ、オオ
ジュリン
以上32種

宮 島 沼
2021. 4. 18

新型コロナウイルス感染症の影響で中止

【幹事による参考記録】ヒシクイ、マガン、コハクチョ
ウ、オオハクチョウ、ヨシガモ、オナガガモ、コガモ、キ
ンクロハジロ、スズガモ、ミコアイサ、カワウ、アオサ
ギ、トビ、オジロワシ、オオワシ、アリスイ、ハシボソガ
ラス、ヒバリ、ムクドリ、ツグミ、ハクセキレイ、カワラ
ヒワ、アオジ
以上23種

野幌森林公園
2021. 4. 25

新型コロナウイルス感染症の影響で中止

【幹事による参考記録】オシドリ、キンクロハジロ、カイ
ツブリ、フクロウ、コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ハシブ
トガラス、ハシブトガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨ
ドリ、ウグイス、エナガ、ゴジュウカラ、クロツグミ、ル
リビタキ、ニューナイスズメ、カワラヒワ、マヒワ、アオ
ジ
以上21種

藤 の 沢
2021. 5. 5

新型コロナウイルス感染症の影響で中止

【幹事による参考記録】コゲラ、アカゲラ、ヤマゲラ、ハ
シボソガラス、ハシブトガラス、ハシブトガラ、ヤマガ
ラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、ゴジュウカラ、
クロツグミ、オオルリ、スズメ、キセキレイ、ハクセキ
レイ、ホオジロ、カワラヒワ、アオジ
以上19種

.....

※探鳥会中止の周知活動を行った幹事による参考記録を
4月開催分から掲載することにしました。



新型コロナウイルス感染症の状況により中止の場合があります。開催の有無は当会ホームページでご確認ください。

【野幌森林公園】2021年7月11日(日)、9月12日(日)

野幌森林公園も7月と9月とではそれぞれ異なる趣があります。午前日程で終わられるよう探鳥コースを変更する場合があります。

集 合：野幌森林公園大沢口 9：00
交 通：JRバス 新札幌駅発（文京台循環線）
「文京台南町」下車 徒歩10分

【石狩川河口】2021年8月22日(日)

石狩浜・河口で主にシギ・チドリ、草地ではホオアカやノビタキ等を楽しみます。はまなすの丘公園ビジターセンターの前から浜に出て河口まで、河口からは石狩川に沿って戻ります。正午近くに駐車場に戻って鳥合わせをし、自由解散となります。

集 合：はまなすの丘公園ビジターセンター駐車場
9：30
交 通：中央バス 札幌ターミナル発（石狩行）
「石狩」下車、徒歩20分

【鶴川河口】2021年8月29日(日)

鶴川河口付近の自然干潟や人工干潟でシギ・チドリを楽しみます。人工干潟付近で鳥合わせをし、自由解散となります。

集 合：道の駅むかわ四季の館駐車場 9：45
交 通：道南バス 札幌駅前発または大谷地バスターミナル発（浦河行ベガサス号）「四季の館前」下車

【いしかり調整池】2021年9月5日(日)

この時期、いしかり調整池にやってくるシギ・チドリを主に観察します。水鳥たちを狙って猛禽類もやってきます。調整池をゆっくり一周して観察します。11：30頃に鳥合わせを行い、自由解散となります。

集 合：いしかり調整池駐車場 9：30
交 通：公共の交通機関はありません。

【宮島沼】2021年9月26日(日)

例年この時期に秋のマガンの渡りのピークを迎えます。マガンの他にも、ハクチョウ類、カモ類、カイツブリ類なども見られます。時には猛禽類が上空にあらわれ、水面の水鳥たちが一斉に飛び立つ場面なども見られます。11：30頃に鳥合わせを行い、自由解散となります。

集 合：湖畔 10：00
交 通：中央バス 岩見沢ターミナル発（月形駅行）
または月形駅発（岩見沢行）「大富」下車15分

☆雨具、観察用具、筆記用具などお持ちください。
☆悪天候で中止の場合があります。
☆問い合わせ 北海道自然保護協会 011-251-5465
10：00～16：00（土日、祝祭日を除く）

鳥民だより

◆2021年度 野鳥写真展 出展者・作品◆



野鳥写真展（5月10日～21日 ほくでんギャラリー）

出光 昭吉・・・ツグミ、ハクセキレイ
近藤 章子・・・フルマカモメ、ツツドリ
佐伯 武美・・・キビタキ、ヤマガラ
佐藤ひろみ・・・アオガン、マナヅル
漆崎 修・・・アカエリヒレアシシギ、スズメ
品川 睦生・・・アリスイ、オシドリ
高島 均・・・ダイサギ、ヤマセミ
田中 陽・・・アオバズク、アマサギ
長野 隆行・・・キバシリ
中村 隆・・・マヒワ、クマゲラ
早坂 泰夫・・・ハクガン、トラフズク
藤吉 功・・・ツツドリ、ノスリ
道川富美子・・・ルリビタキ、シラガホオジロ
森田 龍十・・・エナガ(亜種シマエナガ)、フクロウ
山地みのり・・・ツメナガホオジロ、シラガホオジロ
以上15名29点

※当会ホームページの「WEB版野鳥写真展」で見られます。

【新しく会員になられた方々】

及川 亮蔵（江別市）
大西 智子（札幌市豊平区）
池田 紀美江（札幌市東区）
宮本 誠一郎（宗谷管内礼文町）
神 武海・真琴・洋武・優真（江別市）
南 貴和子（北広島市）
加藤 敦史・由紀子（大阪府高槻市）
越智 葵（十勝管内上士幌町）
大和谷 正人（札幌市南区）
竹澤 幸一（石狩市）
匿名希望2名

【北海道野鳥愛護会】年会費 個人 2,000 円、家族 3,000 円(会計年度4月より)

郵便振替 02710-5-18287

〒060-0003 札幌市中央区北3条西11丁目加森ビル5・6階 北海道自然保護協会気付 ☎(011) 251-5465

HPのアドレス <https://aigokai.org>